### 1. 高齢者でバス停まで歩けない人への移動手段の確保を

【質問】 近年、高齢者で町営バス巡回線のバス停まで歩けない人が出てきた。町営バスに関するアンケート調査を行いデマンド交通(車で自宅の前まで送迎する交通システム)など対策の検討を。

≪回答≫ アンケート調査を行い、庁内や地域公共交通会議で課題解決に向け検討する。

## 2. 松本盆地と池田町の地下水保全対策の推進を

【質問 1】 信州大学の中屋真司教授(以降、教授)は安曇野市の地下水保全対策を研究し、 次のように提言している。

「松本盆地の地下水は一つの水カメのように繋がっている(写真)。 地下水の保全にはそれぞれの自治体で地下水保全目標事象(例 安曇野市ではワサビ栽培に影響する1cmの地下水低下を防ぐ事) を定め、それを実現する地下水揚水量の最大値を定めることが求 められる」

松本盆地・池田町の地下水保全を図るため、アルプス地域地下水保全対策協議会(以降、協議会)で教授に講演いただき、意見交換することを町から協議会に提言を。

≪回答≫ 重要なことなので協議会に提言していく。

【質問 2】町の地下水保全のため池田町も地下水保全目標事象を 定め、地下水揚水量の最大値の設定をすべきでは。

≪回答≫ 設定の調査研究費が多額となることから現状では実施する考えはない。

# 3. 町の景観の良さを活かすレンタサイクルの推進を

【質問 1】 本年3月定例会の一般質問でレンタサイクルの推進 を問い、町は本年度から実施すると回答した。進捗状況は。

≪回答≫ 観光協会では関係者と随時協議しているが、数回の貸し出しに留まっている。今後は情報発信に努め、観光協会や協力店の意向を尊重しながら進めていく。

【質問 2】 町・観光協会・自転車店・コンビニ店などの関係者 の会議を開き、町の計画も示し検討すべきでないか。

≪回答≫ 町の自転車推進計画が決まってから検討していく。



うすい孝彦

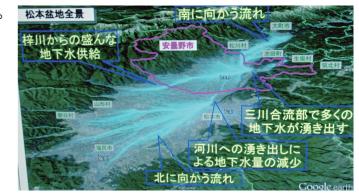


写真:松本盆地の地下水の流れ(盆地の白い流れ) 「安曇野市水環境の可視化に資する研究業務」 報告(31頁、信州大学部工学部 中屋眞司教授)



更なる レンタサイク ルの見える 化を!

写真:安曇野市のレンタサイクルの看板と自転車スタンド

# 一般質問

#### 1. 子どもの医療費窓口完全無料化を求める

【質問 1】 前回、子どもの医療費窓口完全無料化について前副町長が誤った回答をしたため質問が中途半端になったので再度聞く。県から子どもの医療費無料化の補助が160万円追加された分で、窓口で支払う個人負担金500円を無料にできないか。

≪回答(町長)≫ 個人負担金を無料にすると、町は500万円の負担増となる。県の補助を差し引いても340万円の負担増となるので実施は困難である。





### 2. 学校給食費の無料化を求める

【質問1】 学校給食費の無料化は県内22自治体で実施している。給食を共同実施している松川村は「来年度からでも無料化したい考え」と聞いている。町の考えを聞く。 ≪回答(町長)≫ 松川村と歩調を合わせたいと考えている。無料化の方向性は共有しているが、時期・負担割合は検討中である。

【質問 2】給食費完全無料化の財源として、あずみ病院建設補助金3000万円の支払いはあと2年で終わる。その間、ふるさと納税を財源として充てたらどうか。

≪回答(町長)≫ 提案も含め検討する。

### 3、社口原の農業活用について

【質問1】 農業振興協議会の中間答申は、社口原の農業継続と町全体の農地の集積 及び農業再生を担う法人を令和5年度当初までに設立を求めている。見通しは。

≪回答(町長)≫ 精査検討中である。

【質問 2】 町全体の農業集積と社口原の担い手と分けて考えてはどうか。

≪回答(町長)≫ 町の農業の担い手は将来いなくなる。分けて考える状況ではない。

【質問 3】 中間答申では、ぶどう・桃・菜の花・ひまわりを栽培し、菜種油・ひまわりの油を搾る計画である。ぶどう・桃の栽培には農薬散布があり、農薬飛散と地下水利用世帯への地下浸透が心配である。町は「オーガニックビレッジ」を目指している。社口原を有機農業用地とし、担い手に地域おこし協力隊を募集しては。

≪回答(町長)≫ 農薬は「農薬取締法」で安全が確保されている。農薬散布の場所から緩衝帯をとるので飛散の可能性は少ない。地域おこし協力隊も含め人材は検討する。





農業継続が求められている社口原